

平成 20 年 (2008 年) 告示

学習指導要領新旧対照表

小学校 算数

- ☐ 学習指導要領改訂のポイント
- ☐ 学習指導要領学習内容一覧表
- ☐ 学習指導要領新旧対照表

※この冊子は、平成 20 年 (2008 年) 3 月 28 日に文部科学省が告示した
学習指導要領をもとに作成しています。



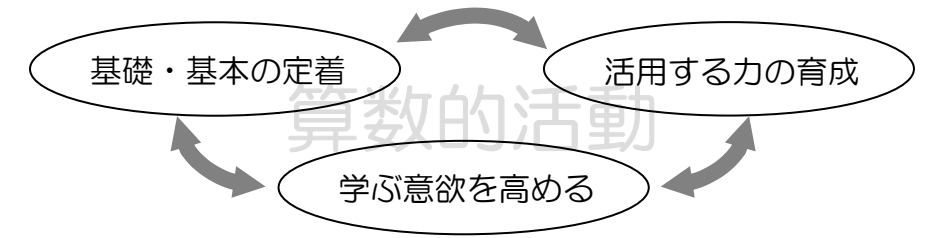
「小学校算数」改訂のポイント

1. 改訂の基本方針

今回の算数・数学科における学習指導要領の改訂の基本方針として、小・中・高等学校を通じ、発達の段階に応じて**算数的活動・数学的活動をいっそう充実**させ、基礎的・基本的な**知識・技能を確実に**身に付け、**数学的な思考力・表現力**を育て、**学ぶ意欲を高める**ようにすることが、平成 20 年 1 月の中央教育審議会答申で述べられている。そして、この基本方針を実現する方策として、以下のようなことがあげられている。

- 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着**のためには、国際的な通用性や算数・数学の内容の系統性を重視し、学年間や学校段階間で内容の一部を重複させて、反復（スパイラル）による教育課程を編成できるようにする。
- 数学的な思考力・表現力を育成**するための指導内容や活動として、根拠を明らかにし、筋道を立てて体系的に考えることや、言葉や数、式、図、表、グラフなどの相互の関連を理解し、それらを適切に用いて問題を解決したり、自分の考えを分かりやすく説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりすることなどの指導を充実する。
- 算数・数学を学ぶ意欲を高め**、学ぶことの意義や有用性を実感させるために、数量や図形の意味を実感的に理解できるようにしたり、スパイラルによる教育課程により理解の広がりや深まりなど学習の進歩が感じられるようにしたり、学習したことを日常生活や他教科等の学習、より進んだ算数・数学の学習へ活用していくことを重視する。
- これらを達成するため、**算数的活動・数学的活動をいっそう充実**し、また、**言語活動や体験活動**をも重視した指導が行われるよう、算数的活動・数学的活動を具体的に示す。

以上のように、これらの点はそれぞれ複合的に関連しあったものとなっている。学習指導要領の総則では、「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。」ことが記されており、その実現に、算数的活動・数学的活動が有効にはたらくと考えられる。



2. 教育課程の変更点

(1) 算数科標準授業時数

学習内容の改善・充実を保証するため、算数においては全学年で授業時数が増加し、総授業時数は現行から 142 時間増となった。

学年	1年	2年～6年	総授業時数
時数	136	175	1011
週当たりコマ数	4	5	

(2) 指導内容の変更

上記基本方針を受け、**基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着**のために、「数と計算」領域を中心に、主にその内容を学習する前の学年で「簡単な」指導内容を重複して設定するなど、**スパイラル**による学習指導を進められるようになっている。

また、国際的な学力調査などの結果から国際的な通用性や系統性に配慮して、「**数量関係**」領域については低学年でも同領域を設定、6 年には

中学校から「文字式」が戻っており、「**図形**」領域では「合同」「拡大図・縮図」「対称」が戻るなど、指導内容の充実がはかられている。
なお、いわゆる「歯止め規定」は取り払われている。

学年	主な変更内容	現行での扱い
1 年	◎簡単な 3 位数の意味と表し方	2 年
	◎簡単な 2 位数の加法・減法	2 年
	◎体積（かさ）、面積（広さ）の比較	3 年、4 年
	◎時刻のよみ方	2 年
	◎身のまわりの平面図形の観察や構成	2 年
2 年	◎式による表現（表す、読み取る）	A 領域
	◎絵や図を用いた数量の表現	
	◎簡単な 3 位数の加法・減法	3 年
	◎簡単な 2 位数の乗法	3 年
	◎簡単な分数	4 年
	◎＜、＞	中 1
	◎時間の単位	3 年
	◎体積（かさ）の単位と測定	3 年
3 年	◎正方形、長方形、直角三角形	3 年
	◎箱の形	3 年
	◎式による表現（表す、読み取る）	A 領域
	◎簡単な表やグラフ	A 領域
	◎1 億	4 年
	◎4 位数の加法・減法	
	◎3 位数×2 位数の乗法	
	◎商が 2 位数になる簡単な除法	4 年
	◎小数の意味と表し方、1/10 の位までの加法・減法	4 年
	◎分数の意味と表し方、同分母真分数の加法・減法	4 年、5 年
4 年	◎不等号	中 1
	◎重さの単位（t）	
	◎二等辺三角形、正三角形	4 年
	◎角	4 年
	◎円、球	4 年
	◎式による表現（表す、読み取る）	A 領域
	◎式と図の関連、□などを用いた式	
	◎四則計算の見積もり	5 年、6 年
	◎整数の四則計算の定着と活用	
	◎1/100 の位などの小数、1/100 の位までの加法・減法	5 年
	◎小数×整数、小数÷整数	5 年
	◎同分母分数の加法・減法	5 年
5 年	◎そろばんでの加法・減法	
	◎面積の単位（a, ha）	
	◎直線の平行や垂直	5 年
	◎平行四辺形、ひし形、台形	5 年
	◎立方体、直方体（見取図、展開図）	6 年
	◎ものの位置の表し方	
	◎□、△などを用いた式	
	◎四則計算の性質（計算法則）	5 年
	◎約数と倍数の性質	6 年
	◎素数	中 3
	◎1/100 の位の小数の乗法・除法	
	◎異分母分数の加法・減法	6 年
	◎分数×整数、分数÷整数	6 年
	◎ひし形、台形の面積	
6 年	◎体積の単位と測定、立方体、直方体の体積	6 年
	◎測定値の平均	6 年
	◎単位量あたりの大きさ（人口密度など）	6 年
	◎正多角形	中 1
	◎図形の合同	中 2
	◎角柱、円柱	6 年
	◎簡単な比例の関係	6 年
	◎分数と小数の乗法・除法の混合計算	
	◎小数や分数の四則計算の定着と活用	
	◎逆数	中 1
	◎円の面積	5 年
	◎角柱、円柱の体積	中 1
	◎メートル法の単位のしくみ	
	◎拡大図と縮図	中 3
	◎対称な図形（線対称、点対称）	中 1
	◎反比例	中 1
	◎文字を用いた式	中 1
	◎度数分布	
	◎起こり得る場合の数	中 2

(3) 算数的活動

学ぶことの意義や有用性を実感できるよう算数を実際の場面で活用するなどの**算数的活動**を、指導内容として具体例で規定している。ただし、これは独立した指導内容ではなく、これらの活動をとおして算数の 4 領域の指導を行うことが求められているものである。

以下に、算数的活動の類型として考えられる 3 点をあげた。

- 具体物を用いて数量や図形についての意味を理解する活動
- 知識や技能を実際の場面で活用する活動
- 問題解決の方法を考え説明する活動

新学習指導要領 小学校算数科 学習内容一覧表

※ ●は学年間移動や新規の内容、★はスパイラルのため学年間で重複させる内容

	A 数と計算	B 量と測定	C 図形	D 数量関係	算数的活動
小学校1年	※活動ア ○2位数(100までの数) ★簡単な3位数(115, 120など) ○1位数どうしの加法とその逆の減法 ★簡単な2位数の加減計算(70±20, 24±3など)	○長さの直接比較, 間接比較, 任意単位 ●体積(かさ), 面積(広さ)の直接比較, 間接比較, 任意単位 ●時計の読み方(何時, 何時半, 何時何分)←2年	○前後, 左右, 上下などの方向や位置 ○立体図形(身の回りのものの形の観察や形作り)※活動エ ●平面図形(身の回りのものの形の観察や形作り)※活動エ	●加法, 減法の式による表現(式を読み取る, 場面を式に表す) ●絵, 図による数量の表現(数量の大きさを絵や図で表す, 絵や図から数量を読み取る)	ア 具体物をまとめて数えたりする活動 イ 計算の仕方を説明する活動 ウ 量の大きさを比べる活動 エ 形を作る活動 オ 場面を式に表す活動
小学校2年	※活動ア ○2位数どうしの加法とその逆の減法 ★簡単な3位数の加減計算(360±20など) ○乗法九九 ★簡単な2位数の乗法計算(12×3など) ●＜, ＞ ★簡単な分数(1/2, 1/4など)	○長さの単位(mm, cm, m)と測定 ●体積の単位(ml, dl, l)と測定←3年 ●時間の単位(日, 時, 分)←3年	○三角形, 四角形 ●正方形, 長方形, 直角三角形←3年 ●箱の形←3年 ●頂点, 辺, 面←3年	●加法, 減法の相互関係(式を用いて説明する) ●乗法の式による表現(式を読み取る, 場面を式に表す) ○簡単な表やグラフ(絵グラフ)	ア 整数が使われる場面を見付ける活動 イ 乗法九九表からきまりを見付ける活動 ウ 量の大きさの見当を付けたり測定したりする活動 エ 長方形などを作ったり, 敷き詰めたりする活動 オ 式や図に表し説明する活動
小学校3年	※活動ア ○万の単位, ★1億 ○加減計算(3位数, ●4位数) ○乗法の計算(Ⅱ～Ⅲ×Ⅰ～Ⅱ, ●Ⅲ×Ⅱ) ○除法(九九1回適用) ★簡単な÷1位数=2位数の除法計算(90÷3, 120÷3など) ○等号, ●不等号 ●小数(1/10の位, 加減計算)←4年 ●分数(1より小さい分数, 加減計算)←4年, 5年 ※活動イ ○そろばん(数の表し方, 加減計算の仕方)	○長さの単位(km) ○重さの単位(g, kg, ●t)と測定 ※活動ウ ○時刻と時間の計算, 時間の単位(秒)	●二等辺三角形, 正三角形←4年 ●角←4年(角度は4年で扱う) ●円, 球←4年	○表や棒グラフ ●除法の式による表現(式を読み取る, 場面を式に表す) ●□を用いた式, 式と図の関連	ア 計算の仕方を説明する活動 イ 小数や分数の大きさを比べる活動 ウ 単位の関係を調べる活動 エ 二等辺三角形, 正三角形などを作図する活動 オ 資料を表を用いて表す活動
小学校4年	○億, 兆の単位, 十進位取り記数法 ○概数 ●概数を使った加減乗除の見積り←5, 6年 ●以上, 以下, 未満 ○除法の筆算(Ⅱ～Ⅲ÷Ⅰ～Ⅱ) ★整数の計算(加減乗除)の定着と活用 ●小数(1/100の位以下, 加減計算)←5年 ●小数×整数, 小数÷整数←5年 ○分数(仮分数, 帯分数) ●大きさの等しい分数←5年 ●同分母分数の加減計算←5年 ●そろばん(加減計算)	○長方形, 正方形の面積の求め方 ※活動イ ○面積の単位(cm2, m2, km2, ●a, ha)※活動ウ ○角の大きさの単位(度(°))	●平行, 垂直←5年 ●平行四辺形, ひし形, 台形←5年 ●直方体, 立方体(見取図, 展開図も扱う)←6年 ●平面や空間の位置の表し方	○伴って変わる2つの数量の関係 ○四則混合や()の式 ●四則計算の性質のまとめ(交換法則, 結合法則, 分配法則)←5年 ●□, △などを用いた式 ○折れ線グラフ ○資料の分類整理(2次元表, 落ちや重なりがないように調べること)	ア 計算の見積りをし判断する活動 イ 面積の求め方を説明する活動 ウ 面積を実測する活動 エ 平行四辺形, ひし形, 台形を敷き詰める活動 オ 身の回りの伴って変わる2つの数量の関係を表やグラフを使って調べる活動
小学校5年	○偶数と奇数 ●倍数と約数←6年 ●素数←中3 ○整数と小数の記数法 ○小数の乗除計算(×小数, ÷小数) ●通分, 約分, 異分母分数の加減計算←6年 ○商分数(A÷B=A/B) ●分数×整数, 分数÷整数←6年	○平行四辺形, 三角形の面積の求め方 ●ひし形, 台形の面積の求め方 ※活動イ ●直方体, 立方体の体積の求め方←6年 ●体積の単位(cm3, m3)←6年 ●平均(測定値)←6年 ●単位量あたりの大きさ(人口密度など)←6年	○多角形, ●正多角形←中1 ○図形の内角の和 ●図形の合同←中2 ○円周率 ●角柱, 円柱(見取図, 展開図も扱う)←6年	○割合(百分率), 歩合 ○円グラフ, 帯グラフ ※活動オ ○簡単な式で表された数量の関係 ★簡単な比例の関係	ア 計算の仕方を説明する活動 イ 面積の求め方を説明する活動 ウ 合同な図形をかく活動 エ 図形の性質を帰納的, 演繹的に説明する活動 オ 目的に応じて表やグラフを選び活用する活動
小学校6年	※活動ア ○分数の乗除計算(×分数, ÷分数) ●整数と小数, 分数の乗除混合計算 ●逆数←中1 ★小数, 分数の計算(加減乗除)の定着と活用	●円の面積の求め方←5年 ○概形をとらえて面積や体積を概測すること ○速さ ●角柱, 円柱の体積の求め方←中1 ●メートル法の仕組み ※活動イ	●拡大図, 縮図←中3 ●線対称, 点対称←中1	○比, ●比の値 ○比例, ●反比例←中1 ●比例を用いて問題を解決すること ●文字を用いた式(a, xなど)←中1 ○平均(代表値) ●ちらばり, 度数分布, 柱状グラフ ●場合の数←中2	ア 計算の仕方を説明する活動 イ 単位の関係を調べる活動 ウ 縮図, 対称な図形などを見付ける活動 エ 比例の関係をもとに問題を解決する活動

小学校學習指導要領新旧対照表

【凡例】 _____：変更・新設 （削除）：削除事項 （新設）：新設事項 （移動）：移動事項 吹き出し：補足説明

改訂	現行
第3節 算 数	第3節 算 数
第1 目 標	第1 目 標
算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。	数量や図形についての算数的活動を通して、基礎的な知識と技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考える能力を育てるとともに、活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活に生かそうとする態度を育てる。
第2 各学年の目標及び内容	第2 各学年の目標及び内容
〔第1学年〕	〔第1学年〕
1 目 標	1 目 標
(1) 具体物を用いた活動などを通して、数についての感覚を豊かにする。数の意味や表し方について理解できるようにするとともに、加法及び減法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。	(1) 具体物を用いた活動などを通して、数についての感覚を豊かにする。数の意味や表し方について理解できるようにするとともに、加法及び減法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。
(2) 具体物を用いた活動などを通して、量とその測定についての理解の基礎となる経験を重ね、量の大きさについての感覚を豊かにする。	(2) 具体物を用いた活動などを通して、量とその測定についての理解の基礎となる経験を重ね、量の大きさについての感覚を豊かにする。
(3) 具体物を用いた活動などを通して、図形についての理解の基礎となる経験を重ね、図形についての感覚を豊かにする。	(3) 具体物を用いた活動などを通して、図形についての理解の基礎となる経験を重ね、図形についての感覚を豊かにする。
(新設)	
(4) 具体物を用いた活動などを通して、数量やその関係を言葉、数、式、図などに表したり読み取ったりすることができるようにする。	
2 内 容	2 内 容
A 数と計算	A 数と計算
(1) ものの個数を数えることなどの活動を通して、数の意味について理解し、数を用いることができるようにする。	(1) ものの個数を数えることなどの活動を通して、数の意味について理解し、数を用いることができるようにする。
ア ものともとのを対応させることによって、ものの個数を比べること。	ア 対応などの操作によって、ものの個数を比べること。
イ 個数や順番を正しく数えたり表したりすること。	イ 個数や順番を正しく数えたり表したりすること。
ウ 数の大小や順序を考えることによって、数の系列を作ったり、数直線の上に表したりすること。	ウ 数の大小及び順序を考えることによって、数の系列を作ったり、数直線の上に表したりすること。
エ 一つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。	エ 一つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。
オ 2位数の表し方について理解すること。	オ 100 までの数について、その表し方と意味を理解すること。
(新設)	
カ 簡単な場合について、3位数の表し方を知ること。	
(新設)	
キ 数を十を単位としてみること。	
(2) 加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。	(2) 加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。
ア 加法及び減法が用いられる場合について知ること。	ア 加法及び減法が用いられる場合について知り、それらを式で表したり、その式をよんだりすること。
イ 1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算の仕方を考え、それらの計算が確実にできること。	イ 1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算の仕方を考え、その計算が確実にできること。
(新設)	
ウ 簡単な場合について、2位数などの加法及び減法の計算の仕方を考えること。	(3) 具体的な事物について、まとめて数えたり等分したりし、それを整理して表すことができるようにする。
B 量と測定	B 量と測定
(1) 大きさを比較するなどの活動を通して、量とその測定についての理解の基礎となる経験を豊かにする。	(1) ものの長さを比較することなどの活動を通して、量とその測定についての理解の基礎となる経験を豊かにする。
(新設：面積、体積)	
ア 長さ、面積、体積を直接比べること。	ア 長さを直接比べること。
イ 身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比べること。	イ 身近にあるものの長さを単位として、その幾つ分かで長さを比べること。
(2) 日常生活の中で時刻を読むことができるようにする。	
C 図 形	C 図 形
(1) 身の回りにあるものの形についての観察や構成などの活動を通して、図形についての理解の基礎となる経験を豊かにする。	(1) 身近な立体についての観察や構成などの活動を通して、図形についての理解の基礎となる経験を豊かにする。
ア ものの形を認めたり、形の特徴をとらえたりすること。	ア ものの形を認めたり、形の特徴をとらえたりすること。
イ 前後、左右、上下など方向や位置に関する言葉を正しく用いて、ものの位置を言い表すこと。	イ 前後、左右、上下などの方向や位置に関する言葉を正しく用いて、ものの位置を言い表すこと。
(新設)	
D 数量関係	
(1) 加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができるようにする。	(移動) 現行第1学年「A数と計算」(2)アから
(移動) 現行第2学年「B量と測定」(2)から	

(新設) (2) <u>ものの個数を絵や図などを用いて表したり読み取ったりすることができるようにする。</u> (新設) 【算数的活動】 (1) <u>内容の「A数と計算」，「B量と測定」，「C図形」及び「D数量関係」に示す事項については，例えば，次のような算数的活動を通して指導するものとする。</u> ア <u>具体物をまとめて数えたり等分したりし，それを整理して表す活動</u> イ <u>計算の意味や計算の仕方を，具体物を用いたり，言葉，数，式，図を用いたりして表す活動</u> ウ <u>身の回りにあるものの長さ，面積，体積を直接比べたり，他のものを用いて比べたりする活動</u> エ <u>身の回りから，いろいろな形を見付けたり，具体物を用いて形を作ったり分解したりする活動</u> オ <u>数量についての具体的な場面を式に表したり，式を具体的な場面に結び付けたりする活動</u> 【用語・記号】 一の<u>位</u> 十の<u>位</u> + - = 【第2学年】 1 目 標 (1) 具体物を用いた活動などを通して，数についての感覚を豊かにする。数の意味や表し方についての理解を深めるとともに，加法及び減法についての理解を深め，用いることができるようにする。また，乗法の意味<u>について</u>理解し，その計算の仕方を考え，用いることができるようにする。 (2) 具体物を用いた活動などを通して，<u>長さや体積などの単位と測定</u>について理解できるようにし，量の大きさについての感覚を豊かにする。 (3) 具体物を用いた活動などを通して，<u>三角形や四角形などの図形</u>について理解できるようにし，図形についての感覚を豊かにする。 (新設) (4) <u>具体物を用いた活動などを通して，数量やその関係を言葉，数，式，図，表，グラフなどに表したり読み取ったりすることができるようにする。</u> 2 内 容 A 数と計算 (1) 数の意味や表し方について理解し，数を用いる能力を伸ばす。 ア 同じ大きさの集まりにまとめて数えたり，分類して数えたりすること。 イ 4位数までについて，十進位取り記数法による数の表し方及び数の大小や順序について理解すること。 ウ 数を十<u>や</u>百を単位として<u>みる</u>など，数の相対的な大きさについて理解すること。 エ 一つの数をほかの数の積としてみるなど，ほかの数と関係付けてみること。 (新設) オ <u>1/2，1/4 など簡単な分数について知ること。</u> (2) 加法及び減法についての理解を深め，それらを用いる能力を伸ばす。 ア <u>2位数の加法及びその逆の減法の計算の仕方を考え，それらの計算が1位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解し，それらの計算が確実にできること。また，それらの筆算の仕方について理解すること。</u> (新設) イ <u>簡単な場合について，3位数などの加法及び減法の計算の仕方を考えること。</u> ウ 加法及び減法に関して成り立つ性質を調べ，それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。 (3) 乗法の意味について理解し，それを用いることができるようにする。 ア 乗法が用いられる場合について<u>知る</u>こと。 イ 乗法に関して成り立つ簡単な性質を調べ，それを乗法九九を構成したり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。 ウ 乗法九九について知り，1位数と1位数との乗法の計算が確実にできること。	(移動) 現行第1学年「A数と計算」(3) から 【用語・記号】 一の<u>くらい</u> 十の<u>くらい</u> + - = 【第2学年】 1 目 標 (1) 具体物を用いた活動などを通して，数についての感覚を豊かにする。数の意味や表し方についての理解を深めるとともに，加法及び減法についての理解を深め，用いることができるようにする。また，乗法の意味<u>を</u>理解し，その計算の仕方を考え，用いることができるようにする。 (2) 具体物を用いた活動などを通して，長さの<u>単位や測定</u>について理解できるようにし，量の大きさについての感覚を豊かにする。 (3) 具体物を用いた活動などを通して，図形について<u>の理解の基礎となる経験を一層重ね</u>，図形についての感覚を豊かにする。 2 内 容 A 数と計算 (1) 数の意味や表し方について理解し，数を用いる能力を伸ばす。 ア 同じ大きさの集まりにまとめて数えたり，分類して数えたりすること。 イ 4位数までについて，十進位取り記数法による数の表し方及び数の大小や順序について理解すること。 ウ 数を十を単位として<u>みたり</u>百を単位として<u>みたりする</u>など，数の相対的な大きさについて理解すること。 エ 一つの数をほかの数の積としてみるなど，ほかの数と関係付けてみること。 オ <u>簡単な事柄を分類整理し，それを数を用いて表したり，表やグラフの形に表したりすること。</u> (2) 加法及び減法についての理解を深め，それらを用いる能力を伸ばす。 ア <u>加法と減法の相互関係について理解すること。</u> イ <u>2位数までの加法及びその逆の減法の計算の仕方を考え，それらの計算が1位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解し，それらの計算が確実にできること。また，それらの筆算の仕方について理解すること。</u> ウ 加法及び減法に関して成り立つ性質を調べ，それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。 (3) 乗法の意味について理解し，それを用いることができるようにする。 ア 乗法が用いられる場合について<u>知り，それを式で表したり，その式をよんだりすること。</u> イ 乗法に関して成り立つ簡単な性質を調べ，それを乗法九九を構成したり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。 ウ 乗法九九について知り，1位数と1位数との乗法の計算が確実にできること。
--	---

(新設) エ 簡単な場合について，2位数と1位数との乗法の計算の仕方を考えること。 B 量と測定 (1) 長さについて単位と測定の意味を理解し，長さの測定ができるようにする。 ア 長さの単位（ミリメートル(mm)，センチメートル(cm)，メートル(m)）について知ること。 (2) 体積について単位と測定の意味を理解し，体積の測定ができるようにする。 ア 体積の単位（ミリリットル(ml)，デシリットル(dl)，リットル(l)）について知ること。 (3) 時間について理解し，それを用いることができるようにする。 ア 日，時，分について知り，それらの関係を理解すること。 C 図形 (1) ものの形についての観察や構成などの活動を通して，図形を構成する要素に着目し，図形について理解できるようにする。 ア 三角形，四角形について知ること。 イ 正方形，長方形，直角三角形について知ること。 ウ 箱の形をしたものについて知ること。 (新設) D 数量関係 (1) 加法と減法の相互関係について理解し，式を用いて説明できるようにする。 (2) 乗法が用いられる場面を式に表したり，式を読み取ったりすることができるようにする。 (3) 身の回りにある数量を分類整理し，簡単な表やグラフを用いて表したり読み取ったりすることができるようにする。 (新設) 【算数的活動】 (1) 内容の「A数と計算」，「B量と測定」，「C図形」及び「D数量関係」に示す事項については，例えば，次のような算数的活動を通して指導するものとする。 ア 身の回りから，整数が使われている場面を見付ける活動 イ 乗法九九の表を構成したり観察したりして，計算の性質やきまりを見付ける活動 ウ 身の回りにあるものの長さや体積について，およその見当を付けたり，単位を用いて測定したりする活動 エ 正方形，長方形，直角三角形をかいいたり，作ったり，それらで平面を敷き詰めたりする活動 オ 加法と減法の相互関係を図や式に表し，説明する活動 【用語・記号】 単位 直線 直角 頂点 辺 面 × ≥ ≤ 3 内容の取扱い (新設) (1) 内容の「A数と計算」の(1)については，1万についても取り扱うものとする。 (2) 内容の「A数と計算」の(2)及び「D数量関係」の(1)については，必要な場合には，（ ）や□などを用いることができる。 (3) 内容の「A数と計算」の(2)のウについては，交換法則や結合法則を取り扱うものとする。 (4) 内容の「A数と計算」の(3)のイについては，乗数が1ずつ増えるときの積の増え方や交換法則を取り扱うものとする。 【第3学年】 1 目標 (1) 加法及び減法を適切に用いることができるようにするとともに，乗法についての理解を深め，適切に用いることができるようにする。また，除法の意味について理解し，その計算の仕方を考え，用いることができるようにする。さらに，小数及び分数の意味や表し方について理解できるようにする。 (2) 長さ，重さ及び時間の単位と測定について理解できるようにする。 (3) 図形を構成する要素に着目して，二等辺三角形や正三角形などの図形について理解できるようにする。	B 量と測定 (1) 長さについて理解し，簡単な場合について，長さの測定ができるようにする。 ア 長さについて単位と測定の意味を理解すること。 イ 長さの単位（ミリメートル(mm)，センチメートル(cm)及びメートル(m)）について知ること。 (2) 日常生活の中で時刻をよむことができるようにする。 C 図形 (1) ものの形についての観察や構成などの活動を通して，図形についての理解の基礎となる経験を一層豊かにする。 ア いろいろな形を作ったり分解したりすること。 イ 三角形，四角形などについて知り，それらをかいいたり作ったりすること。 (移動) 現行第2学年「A数と計算」(2)アから (移動) 現行第2学年「A数と計算」(3)アから (移動) 現行第2学年「A数と計算」(1)オから 【用語・記号】 たんい 直線 × 3 内容の取扱い (1) 内容の「A数と計算」の(2)については，必要な場合には，（ ）や□などを用いることができる。 (2) 内容の「A数と計算」の(2)のウについては，交換法則や結合法則，加法と減法の相互関係を取り扱うものとする。 (削除) (3) 内容の「A数と計算」の(3)については，(1)及び(2)の理解の基礎の上に立って取り扱うものとする。 (4) 内容の「A数と計算」の(3)のイについては，乗数が1ずつ増えるときの積の増え方や交換法則を取り扱うものとする。 【第3学年】 1 目標 (1) 加法及び減法を適切に用いることができるようにするとともに，乗法についての理解を深め，適切に用いることができるようにする。また，除法の意味について理解し，その計算の仕方を考え，用いることができるようにする。 (2) かさ，重さや時間などの単位や測定について理解できるようにする。 (3) 図形を構成する要素に着目して，基本的な図形について理解できるようにする。
--	--

(4) 数量やその関係を言葉，数，式，図，表，グラフなどに表したり読み取ったりすることができるようにする。

2 内 容

A 数と計算

(1) 整数の表し方についての理解を深め，数を用いる能力を伸ばす。

ア 万の単位について知ること。

イ 10 倍，100 倍，1/10 の大きさの数及びその表し方について知ること。

ウ 数の相対的な大きさについての理解を深めること。

(2) 加法及び減法の計算が確実にできるようにし，それらを適切に用いる能力を伸ばす。

(新設：4 位数の加法及び減法)

ア 3 位数や4 位数の加法及び減法の計算の仕方を考え，それらの計算が2 位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また，それらの筆算の仕方について理解すること。

イ 加法及び減法の計算が確実にでき，それらを適切に用いること。

ウ 加法及び減法に関して成り立つ性質を調べ，それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。

(3) 乗法についての理解を深め，その計算が確実にできるようにし，それを適切に用いる能力を伸ばす。

(新設：3 位数に2 位数をかける乗法)

ア 2 位数や3 位数に1 位数や2 位数をかけ乗法の計算の仕方を考え，それらの計算が乗法九九などの基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また，その筆算の仕方について理解すること。

イ 乗法の計算が確実にでき，それを適切に用いること。

ウ 乗法に関して成り立つ性質を調べ，それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。

(4) 除法の意味について理解し，それを用いることができるようにする。

ア 除法が用いられる場合について知ること。また，余りについて知ること。

イ 除法と乗法や減法との関係について理解すること。

ウ 除数と商が共に1 位数である除法の計算が確実にできること。

(新設)

エ 簡単な場合について，除数が1 位数で商が2 位数の除法の計算の仕方を考えること。

(5) 小数の意味や表し方について理解できるようにする。 (移動) 現行第4 学年「A 数と計算」(4) の一部から

ア 端数部分の大きさを表すのに小数を用いること。また，小数の表し方及び1/10 の位について知ること。 (移動) 現行第4 学年「A 数と計算」(4) アから

イ 1/10 の位までの小数の加法及び減法の意味について理解し，計算の仕方を考え，それらの計算ができること。 (移動) 現行第4 学年「A 数と計算」(4) ウから

(6) 分数の意味や表し方について理解できるようにする。 (移動) 現行第4 学年「A 数と計算」(5) から

ア 等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表すのに分数を用いること。また，分数の表し方について知ること。

イ 分数は，単位分数の幾つ分かで表せることを知ること。

ウ 簡単な場合について，分数の加法及び減法の意味について理解し，計算の仕方を考えること。 (移動) 現行第5 学年「A 数と計算」(4) エの一部から

(7) そろばんによる数の表し方について知り，そろばんを用いて簡単な加法及び減法の計算ができるようにする。

ア そろばんによる数の表し方について知ること。

イ 加法及び減法の計算の仕方について知ること。

B 量と測定

(1) 長さについての理解を深めるとともに，重さについて単位と測定の意味を理解し，重さの測定ができるようにする。

ア 長さの単位（キロメートル(km)）について知ること。

イ 重さの単位（グラム(g)，キログラム(kg)）について知ること。 (移動) 現行第3 学年「3 内容の取扱い」(6) から

(2) 長さや重さについて，およその見当を付けたり，目的に応じて単位や計器を適切に選んで測定したりできるようにする。

(4) 資料を整理して表やグラフに表したり用いたりすることができるようにし，それらの有用さが分かるようにする。

2 内 容

A 数と計算

(1) 数の表し方についての理解を深め，数を用いる能力を伸ばす。

ア 万の単位について知ること。

イ 10 倍，100 倍したり10 で割ったりした大きさの数及びその表し方について知ること。

ウ 数の相対的な大きさについての理解を深めること。

(2) 加法及び減法の計算が確実にできるようにし，それらを適切に用いる能力を伸ばす。

ア 3 位数の加法及び減法の計算の仕方を考え，それらの計算が2 位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また，それらの筆算の仕方について理解すること。

イ 加法及び減法の計算が確実にでき，それらを適切に用いること。

ウ 加法及び減法に関して成り立つ性質を調べ，それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。

(3) 乗法についての理解を深め，その計算が確実にできるようにし，それを適切に用いる能力を伸ばす。

ア 2 位数や3 位数に1 位数をかけたり，2 位数に2 位数をかけたりする乗法の計算の仕方を考え，それらの計算が乗法九九などの基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また，その筆算の仕方について理解すること。

イ 乗法の計算が確実にでき，それを適切に用いること。

ウ 乗法に関して成り立つ性質を調べ，それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。

(4) 除法の意味について理解し，それを用いることができるようにする。

ア 除法が用いられる場合について知り，それを式で表したり，その式をよんだりすること。また，余りの意味について理解すること。

イ 除法と乗法や減法との関係について理解すること。

ウ 除数と商が共に1 位数である除法の計算が確実にできること。

(5) そろばんによる数の表し方について知り，そろばんを用いて簡単な加法及び減法の計算ができるようにする。

ア そろばんによる数の表し方について知ること。

イ 加法及び減法の計算の仕方について知ること。

B 量と測定

(1) 長さ，かさ，重さについて理解し，簡単な場合について，それらの測定ができるようにする。

ア 長さの単位（キロメートル(km)）について知ること。

イ かさ，重さについて単位と測定の意味を理解すること。

ウ かさの単位（リットル(ℓ)）について知ること。

エ 重さの単位（グラム(g)）について知ること。

(2) 長さなどについて，およその見当をつけたり，目的に応じて単位や計器を適切に選んで測定したりできるようにする。

(3) 時間について理解できるようにする。 ア 秒について<u>知</u>ること。 イ <u>日常生活の中で必要となる時刻や時間</u>を求めること。 C 図形 (1) <u>図形</u>についての観察や構成などの活動を通して、<u>図形を構成する要素に着目し</u>、<u>図形について理解できるようにする。</u> ア <u>二等辺三角形，正三角形について知</u>ること。 イ <u>角について知</u>ること。 ウ <u>円，球について知</u>ること。また，それらの中心，半径，直径について知ること。 D 数量関係 (1) <u>除法が用いられる場面を式に表したり，式を読み取ったりすることができるようにする。</u> (新設) (2) <u>数量の関係を表す式について理解し，式を用いることができるようにする。</u> ア <u>数量の関係を式に表したり，式と図を関連付けたりすること。</u> イ <u>数量を□などを用いて表し，その関係を式に表したり，□などに数を当てはめて調べたりすること。</u> (3) <u>資料を分類整理し，表やグラフを用いて分かりやすく表したり読み取ったりすることができるようにする。</u> ア <u>棒グラフの読み方やかき方について知</u>ること。 (新設) 【算数的活動】 (1) <u>内容の「A数と計算」，「B量と測定」，「C図形」及び「D数量関係」に示す事項については，例えば，次のような算数的活動を通して指導するものとする。</u> ア <u>整数，小数及び分数についての計算の意味や計算の仕方を，具体物を用いたり，言葉，数，式，図を用いたりして考え，説明する活動</u> イ <u>小数や分数を具体物，図，数直線を用いて表し，大きさを比べる活動</u> ウ <u>長さ，体積，重さのそれぞれについて単位の関係を調べる活動</u> エ <u>二等辺三角形や正三角形を定規とコンパスを用いて作図する活動</u> オ <u>日時や場所などの観点から資料を分類整理し，表を用いて表す活動</u> 【用語・記号】 等号 不等号 小数点 1/10 の位 数直線 分母 分子 ÷ 3 内容の取扱い (新設) (1) <u>内容の「A数と計算」の(1)については，1億についても取り扱うものとする。</u> (2) <u>内容の「A数と計算」の(2)及び(3)については，簡単な計算は暗算でできるよう配慮するものとする。</u> (3) <u>内容の「A数と計算」の(2)のウについては，交換法則や結合法則を取り扱うものとする。</u> (4) <u>内容の「A数と計算」の(3)については，乗数又は被乗数が0の場合の計算についても取り扱うものとする。</u> (5) <u>内容の「A数と計算」の(3)のウについては，交換法則，結合法則や分配法則を取り扱うものとする。</u> (新設) (6) <u>内容の「A数と計算」の(5)及び(6)については，小数の0.1と分数の1/10などを数直線を用いて関連付けて取り扱うものとする。</u> (新設) (7) <u>内容の「B量と測定」の(1)のイについては，トン(t)の単位についても触れるものとする。</u>	(3) 時間について理解できるようにする。 ア <u>日，時，分及び秒について知</u>り，それらの関係を理解すること。 イ <u>簡単な場合について，必要な時刻や時間</u>を求めること。 C 図形 (1) <u>ものの形</u>についての観察や構成などの活動を通して，<u>基本的な図形について理解できるようにする。</u> ア <u>箱の形をしたものを観察したり作ったりすることを通して，図形を構成する要素について知</u>ること。 イ <u>図形を構成する要素に着目して，正方形，長方形，直角三角形について知</u>り，それらをかいたり，作ったり，平面上で敷き詰めたりすること。 D 数量関係 (1) <u>資料を表やグラフで分かりやすく表したり，それらをよんだりすることができるようにする。</u> ア <u>日時，場所などの簡単な観点から分類したり，整理して表にまとめたりすること。</u> イ <u>棒グラフのよみ方及びかき方について知</u>ること。 【用語・記号】 等号 直角 ÷ 3 内容の取扱い (1) <u>内容の「A数と計算」の(2)及び(3)については，簡単な計算は暗算でできるよう配慮するものとする。また，暗算を筆算や見積りに生かすよう配慮するものとする。</u> (2) <u>内容の「A数と計算」の(2)のウについては，交換法則や結合法則，<u>加法と減法の相互関係</u>を取り扱うものとする。</u> (3) <u>内容の「A数と計算」の(3)については，乗数又は被乗数が0の場合の計算についても取り扱うものとする。</u> (4) <u>内容の「A数と計算」の(3)のウについては，交換法則，結合法則や分配法則を取り扱うものとする。</u> (5) <u>内容の「B量と測定」の(1)のウについては，ミリリットル(ml)及びデシリットル(dl)の単位についても簡単に取り扱うものとする。</u> (6) <u>内容の「B量と測定」の(1)のエについては，キログラム(kg)の単位についても簡単に取り扱うものとする。</u>
--	---

【第4学年】	
1 目 標	
(1) 除法についての理解を深め、適切に用いることができるようにする。また、小数及び分数の意味や表し方について <u>の理解を深め、小数及び分数についての加法及び減法の意味を理解し、それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。さらに、概数について理解し、目的に応じて用いることができるようにする。</u>	
(2) 面積の単位と測定について理解し、図形の面積を求めることができるようにするとともに、角の大きさの単位と測定について理解できるようにする。	
(3) 図形を構成要素及びそれらの位置関係に着目して <u>考察し、平行四辺形やひし形などの平面図形及び直方体などの立体図形について理解できるようにする。</u>	
(4) 数量やその関係を言葉、数、式、図、表、グラフなどに表したり調べたりすることができるようにする。	
2 内 容	
A 数と計算	
(1) 整数が十進位取り記数法によって表されていることについての理解を深める。 ア 億、兆の単位について知り、十進位取り記数法についてまとめること。	
(2) 概数について理解し、目的に応じて用いることができるようにする。 ア 概数が用いられる場合について知ること。 イ 四捨五入について知ること。 ウ <u>目的に応じて四則計算の結果の見積りをする。</u>	
(3) 整数の除法についての理解を深め、その計算が確実にできるようにし、それを適切に用いる能力を伸ばす。 ア 除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の場合の計算の仕方を考え、それらの計算が基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。 イ 除法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。 ウ 除法について、被除数、除数、商及び余りの間の関係を調べ、次の式にまとめること。 $(\text{被除数}) = (\text{除数}) \times (\text{商}) + (\text{余り})$ エ 除法に関して成り立つ性質を調べ、それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。	
(新設)	
(4) <u>整数の計算の能力を定着させ、それをを用いる能力を伸ばす。</u>	
(5) <u>小数とその加法及び減法についての理解を深めるとともに、小数の乗法及び除法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。</u>	
ア <u>小数が整数と同じ仕組みで表されていることを知るとともに、数の相対的な大きさについての理解を深めること。</u>	
(新設)	
イ <u>小数の加法及び減法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。</u>	
ウ <u>乗数や除数が整数である場合の小数の乗法及び除法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。</u>	
(6) <u>分数についての理解を深めるとともに、同分母の分数の加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。</u>	
ア <u>簡単な場合について、大きさの等しい分数があることに着目すること。</u>	
イ <u>同分母の分数の加法及び減法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。</u>	
(新設)	
(7) <u>そろばんを用いて、加法及び減法の計算ができるようにする。</u>	
B 量と測定	
(1) 面積について単位と測定の意味を理解し、面積を計算によって求めることができるようにする。 ア 面積の単位（平方センチメートル(cm ²)、平方メートル(m ²)、平方キロメートル(k m ²))について知ること。	

(移動) 現行第5学年「A数と計算」(5)ア及び、現行第6学年「A数と計算」(4)アから

【第4学年】	
1 目 標	
(1) 除法についての理解を深め、適切に用いることができるようにする。また、小数及び分数の意味や表し方について理解できるようにするとともに、小数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、 <u>適切に用いることができるようにする。</u>	
(2) 面積の意味について理解し、簡単な平面図形の面積を求めることができるようにするとともに、角の大きさの意味について理解できるようにする。	
(3) 図形を構成する要素に着目して、 <u>基本的な図形についての理解を深めることができるようにする。</u>	
(4) 数量やその関係を式やグラフを用いて表したり考察したりすることができるようにするとともに、目的に応じて依存関係を調べたり分類整理したりすることができるようにする。	
2 内 容	
A 数と計算	
(1) 整数が十進位取り記数法によって表されていることについての理解を一層深める。 ア 億、兆の単位について知り、十進位取り記数法についてまとめること。	
(2) 概数について理解し、目的に応じて用いることができるようにする。 ア 概数が用いられる場合について知ること。 イ 四捨五入について理解すること。	
(3) 整数の除法についての理解を深め、その計算が確実にできるようにし、それを適切に用いる能力を伸ばす。 ア 除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の場合の計算の仕方を考え、それらの計算が基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。 イ 除法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。 ウ 除法について、被除数、除数、商及び余りの間の関係を調べ、次の式にまとめること。 $(\text{被除数}) = (\text{除数}) \times (\text{商}) + (\text{余り})$ エ 除法に関して成り立つ性質を調べ、それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。	
(4) <u>小数の意味とその表し方について理解するとともに、小数の加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。</u> ア <u>端数部分の大きさを表すのに小数を用いること。また、小数の表し方及び 1/10 の位について知ること。</u> イ <u>小数が整数と同じ仕組みで表されていることを知るとともに、数の相対的な大きさについての理解を深めること。</u> ウ <u>1/10 の位までの小数の加法及び減法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。</u>	
(5) <u>分数の意味とその表し方について理解できるようにする。</u> ア <u>端数部分の大きさや等分してできる部分の大きさなどを表すのに分数を用いること。また、分数の表し方について知ること。</u> イ <u>分数は、単位分数の幾つ分かで表せることを知ること。</u>	
B 量と測定	
(1) 面積の意味について理解し、簡単な場合について、面積を求めることができるようにする。 ア <u>面積について単位と測定の意味を理解すること。</u> イ 面積の単位（平方センチメートル(cm ²))について知ること。	

(移動) 現行第5学年「A数と式」(3)アから

(移動) 現行第5学年「A数と式」(4)アから

(移動) 現行第5学年「A数と式」(4)エから

(移動) 現行第4学年「3内容の取扱い」(4)から

- イ 正方形及び長方形の面積の求め方を考えること。
- (2) 角の大きさについて単位と測定の意味を理解し、角の大きさの測定ができるようにする。
- ア 角の大きさを回転の大きさとしてとらえること。

イ 角の大きさの単位（度（°））について知ること。

- C 図形** (移動) 現行第5学年「C図形」(1)の一部から
- (1) 図形についての観察や構成などの活動を通して、図形の構成要素及びそれらの位置関係に着目し、図形についての理解を深める。

ア 直線の平行や垂直の関係について理解すること。 (移動) 現行第5学年「C図形」(1)アから

- イ 平行四辺形、ひし形、台形について知ること。 (移動) 現行第5学年「C図形」(1)イの一部から

- (2) 図形についての観察や構成などの活動を通して、立体図形について理解できるようにする。 (移動) 現行第6学年「C図形」(1)の一部から

ア 立方体、直方体について知ること。 (移動) 現行第6学年「C図形」(1)アから

イ 直方体に関連して、直線や平面の平行や垂直の関係について理解すること。 (移動) 現行第6学年「C図形」(1)アから

- (新設)
- (3) ものの位置の表し方について理解できるようにする。

D 数量関係

- (1) 伴って変わる二つの数量の関係を表したり調べたりすることができるようにする。
- ア 変化の様子を折れ線グラフを用いて表したり、変化の特徴を読み取ったりすること。
- (2) 数量の関係を表す式について理解し、式を用いることができるようにする。
- ア 四則の混合した式や（ ）を用いた式について理解し、正しく計算すること。
- イ 公式についての考え方を理解し、公式を用いること。

- (新設)
- ウ 数量を□、△などを用いて表し、その関係を式に表したり、□、△などに数を当てはめて調べたりすること。

- (3) 四則に関して成り立つ性質についての理解を深める。 (移動) 現行第5学年「D数量関係」(1)から

- ア 交換法則、結合法則、分配法則についてまとめること。
- (4) 目的に応じて資料を集めて分類整理し、表やグラフを用いて分かりやすく表したり、特徴を調べたりすることができるようにする。
- ア 資料を二つの観点から分類整理して特徴を調べること。

イ 折れ線グラフの読み方やかき方について知ること。

(新設)

【算数的活動】

- (1) 内容の「A数と計算」，「B量と測定」，「C図形」及び「D数量関係」に示す事項については、例えば、次のような算数的活動を通して指導するものとする。
- ア 目的に応じて計算の結果の見積りをし、計算の仕方や結果について適切に判断する活動
- イ 長方形を組み合わせた図形の面積の求め方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明する活動
- ウ 身の回りにあるものの面積を実際に測定する活動
- エ 平行四辺形、ひし形、台形で平面を敷き詰めて、図形の性質を調べる活動
- オ 身の回りから、伴って変わる二つの数量を見付け、数量の関係を表やグラフを用いて表し、調べる活動

【用語・記号】

和 差 積 商 以上 以下 未満 真分数 仮分数 帯分数 平行 垂直 対角線 平面

3 内容の取扱い

- (1) 内容の「A数と計算」の(1)については、大きな数を表す際に、3桁ごとに区切りを用いる場合があることに触れるものとする。

- ウ 正方形及び長方形の面積の求め方を考え、それらを用いること。
- (2) 角の大きさについて理解し、それを測定することができるようにする。

ア 角の大きさを回転の大きさとしてとらえ、その単位と測定の意味について理解すること。

イ 角の大きさの単位（度（°））について知ること。

- C 図形**
- (1) 図形についての観察や構成などの活動を通して、基本的な図形についての理解を深める。

ア 図形を構成する要素に着目して、二等辺三角形、正三角形について知り、それらをかいたり、作ったり、平面上で敷き詰めたりすること。

イ 基本的な図形と関連して角について知ること。

ウ 円について中心、直径及び半径を知り、円をかいたり作ったりすること。また、円に関連して球についても直径などを知ること。

イ 基本的な図形と関連して角について知ること。

ウ 円について中心、直径及び半径を知り、円をかいたり作ったりすること。また、円に関連して球についても直径などを知ること。

D 数量関係

- (1) 伴って変わる二つの数量について、それらの関係を表したり調べたりすることができるようにする。
- ア 簡単な場合について、対応させる数量を考えたり、値の組を表などに表したりして関係を調べること。
- イ 変化の様子を折れ線グラフに表したり、それから変化の特徴をよみとったりすること。
- (2) 数量の関係を式で簡潔に表したり、それをよんだりすることができるようにする。
- ア 四則の混合した式や（ ）を用いた式について理解し、正しく計算すること。
- イ 公式についての考え方を理解し、公式を用いること。

- (新設)
- ウ 数量を□、△などを用いて表し、その関係を式に表したり、□、△などに数を当てはめて調べたりすること。

- (3) 目的に応じて資料を集め、分類整理したり、特徴を調べたりすることができるようにする。

- ア 二つの事柄に関して起こる場合について調べること。
- イ 資料の落ちや重なりについて調べること。
- ウ 資料を折れ線グラフに表したり、グラフから特徴や傾向を調べたりすること。

イ 折れ線グラフの読み方やかき方について知ること。

(新設)

【用語・記号】

- (1) 内容の「A数と計算」の(1)については、大きな数を表す際に、3桁ごとに区切りを用いる場合があることに触れるものとする。

【用語・記号】

和 差 積 商 整数 数直線 小数点 分母 分子 帯分数 真分数 仮分数

3 内容の取扱い

- (1) 内容の「A数と計算」の(1)については、大きな数を表す際に、3桁ごとに区切りを用いる場合があることに触れるものとする。

- (2) 内容の「A数と計算」の(2)のウ，(3)，(4)については，簡単な計算は暗算でできるよう配慮するものとする。また，暗算を筆算や見積りに生かすよう配慮するものとする。
- (3) 内容の「A数と計算」の(3)のエについては，除数及び被除数に同じ数をかけても，同じ数で割っても商は変わらないという性質を取り扱うものとする。
- (4) 内容の「A数と計算」の(5)のウについては，整数を整数で割って商が小数になる場合も含めるものとする。

(新設)

- (5) 内容の「B量と測定」の(1)のアについては，アール(a)，ヘクタール(ha)の単位についても触れるものとする。
- (6) 内容の「C図形」の(2)のアについては，見取図や展開図をかくことを取り扱うものとする。
- (7) 内容の「D数量関係」の(4)のアについては，資料を調べるときに，落ちや重なりがないようにすることを取り扱うものとする。

【第5学年】

1 目 標

- (1) 整数の性質についての理解を深める。また，小数の乗法及び除法や分数の加法及び減法の意味について理解を深め，それらの計算の仕方を考え，用いることができるようにする。
- (2) 三角形や平行四辺形などの面積及び直方体などの体積を求めることができるようにする。また，測定値の平均及び異種の二つの量の割合について理解できるようにする。
- (3) 平面図形についての理解を深めるとともに，角柱などの立体図形について理解できるようにする。
- (4) 数量の関係を考察するとともに，百分率や円グラフなどを用いて資料の特徴を調べることができるようにする。

2 内 容

A 数と計算

- (1) 整数の性質についての理解を深める。
ア 整数は，観点を決めると偶数，奇数に類別されることを知ること。
イ 約数，倍数について知ること。
- (2) 記数法の考えを通して整数及び小数についての理解を深め，それを計算などに有効に用いることができるようにする。
ア 10 倍，100 倍，1/10，1/100 などの大きさの数をつくり，それらの関係を調べること。
- (3) 小数の乗法及び除法の意味について理解を深め，それらを用いることができるようにする。

ア 乗数や除数が整数である場合の計算の考え方を基にして，乗数や除数が小数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること。
イ 小数の乗法及び除法の計算の仕方を考え，それらの計算ができること。また，余りの大きさについて理解すること。

(新設)

- ウ 小数の乗法及び除法についても，整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解すること。
- (4) 分数についての理解を深めるとともに，異分母の分数の加法及び減法の意味について理解し，それらを用いることができるようにする。

ア 整数及び小数を分数の形に直したり，分数を小数で表したりすること。
イ 整数の除法の結果は，分数を用いると常に一つの数として表すことができることを理解すること。
ウ 一つの分数の分子及び分母に同じ数を乗除してできる分数は，元の分数と同じ大きさを表すことを理解すること。
エ 分数の相等及び大小について考え，大小の比べ方をまとめること。
オ 異分母の分数の加法及び減法の計算の仕方を考え，それらの計算ができること。

- (2) 内容の「A数と計算」の(3) については，簡単な計算は暗算でできるよう配慮するものとする。
- (3) 内容の「A数と計算」の(3) のエについては，除数及び被除数に同じ数をかけても，同じ数で割っても商は変わらないという性質を取り扱うものとする。

(移動) 現行第5学年「3 内容の取扱い」(1) から

- (4) 内容の「B量と測定」の(1)のイについては，平方メートル(m²)及び平方キロメートル(km²)の単位についても簡単に扱うものとする。

(移動) 現行第6学年「3 内容の取扱い」(6) から

(移動) 現行第4学年「D 数量関係」(3) イから

【第5学年】

1 目 標

- (1) 小数及び分数の意味や表し方についての理解を深める。また，小数の乗法及び除法の意味について理解し，それらの計算の仕方を考え，適切に用いることができるようにするとともに，分数の加法及び減法の意味について理解し，それらの計算の仕方を考え，用いることができるようにする。
- (2) 面積の求め方についての理解を深めるとともに，基本的な平面図形の面積を求めることができるようにする。
- (3) 図形を構成要素及びそれらの位置関係に着目して考察し，基本的な平面図形についての理解を一層深めることができるようにする。
- (4) 百分率や円グラフを用いるなど，統計的に考察することができるようにするとともに，数量の関係を式で表したり，式をよんだり，その関係を調べたりすることができるようにする。

2 内 容

A 数と計算

- (1) 整数の性質についての理解を深める。
ア 整数は，観点を決めると偶数，奇数に類別されることを知ること。
- (2) 記数法の考えを通して整数及び小数についての理解を深め，それを計算などに有効に用いることができるようにする。
ア 10 倍，100 倍，1/10，1/100 などの大きさの数をつくり，それらの関係を調べること。
- (3) 小数の乗法及び除法の意味について理解し，それらを適切に用いることができるようにする。
ア 乗数や除数が整数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること。
イ 乗数や除数が整数の場合の計算の考え方を基にして，乗数や除数が小数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること。
ウ 小数の乗法及び除法の計算の仕方を考え，それらの計算ができること。また，余りの大きさについて理解すること。

- (4) 分数についての理解を深めるとともに，同分母の分数の加法及び減法の意味について理解し，それらを適切に用いることができるようにする。
ア 簡単な場合について，大きさの等しい分数があることに着目すること。
イ 整数及び小数を分数の形に直したり，分数を小数で表したりすること。
ウ 整数の除法の結果は，分数を用いると常に一つの数として表すことができることを理解すること。

- エ 同分母の分数の加法及び減法の計算の仕方を考え，それらの計算ができること。

(移動) 現行第6学年「A数と計算」(2) ウから

(移動) 現行第6学年「A数と計算」(2) アから

(移動) 現行第6学年「A数と計算」(2) イから

(移動) 現行第6学年「A数と計算」(2) から

(移動) 現行第6学年「A数と計算」(1) アから

カ 乗数や除数が整数である場合の分数の乗法及び除法の意味について理解し、計算の仕方を考え、それらの計算ができること。

(移動) 現行第 6 学年「A 数と計算」(3) アから

B 量と測定

(1) 図形の面積を計算によって求めることができるようにする。

ア 三角形、平行四辺形、ひし形及び台形の面積の求め方を考えること。

(2) 体積について単位と測定の意味を理解し、体積を計算によって求めることができるようにする。

ア 体積の単位（立方センチメートル(cm³), 立方メートル(m³)) について知ること。

イ 立方体及び直方体の体積の求め方を考えること。

(新設) (移動) 現行第 6 学年「B 量と測定」(2) ウから

(3) 量の大きさの測定値について理解できるようにする。

ア 測定値の平均について知ること。 (移動) 現行第 6 学年「D 数量関係」(3) の一部から

(4) 異種の二つの量の割合としてとらえられる数量について、その比べ方や表し方を理解できるようにする。

ア 単位量当たりの大きさについて知ること。 (移動) 現行第 6 学年「B 量と測定」(3) アから

C 図形

(1) 図形についての観察や構成などの活動を通して、平面図形についての理解を深める。

ア 多角形や正多角形について知ること。 (移動) 現行中学校第 1 学年から（「多角形」は第 5 学年「3 内容の取扱い」(5) から）

イ 図形の合同について理解すること。 (移動) 現行中学校第 2 学年から

ウ 図形の性質を見だし、それを用いて図形を調べたり構成したりすること。

エ 円周率について理解すること。

(2) 図形についての観察や構成などの活動を通して、立体図形について理解できるようにする。

ア 角柱や円柱について知ること。 (移動) 現行第 6 学年「C 図形」(1) ウから

D 数量関係

(移動) 現行第 6 学年「D 数量関係」(2) の一部から

(1) 表を用いて、伴って変わる二つの数量の関係を考察できるようにする。

ア 簡単な場合について、比例の関係があることを知ること。

(2) 数量の関係を表す式についての理解を深め、簡単な式で表されている関係について、二つの数量の対応や変わり方に着目できるようにする。

(3) 百分率について理解できるようにする。

(4) 目的に応じて資料を集めて分類整理し、円グラフや帯グラフを用いて表したり、特徴を調べたりすることができるようにする。

(新設)

【算数的活動】

(1) 内容の「A 数と計算」、「B 量と測定」、「C 図形」及び「D 数量関係」に示す事項については、例えば、次のような算数的活動を通して指導するものとする。

ア 小数についての計算の意味や計算の仕方を、言葉、数、式、図、数直線を用いて考え、説明する活動

イ 三角形、平行四辺形、ひし形及び台形の面積の求め方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明する活動

ウ 合同な図形をかいたり、作ったりする活動

エ 三角形の三つの角の大きさの和が 180° になることを帰納的に考え、説明する活動。

イ 四角形の四つの角の大きさの和が 360° になることを演繹的に考え、説明する活動。

オ 目的に応じて表やグラフを選び、活用する活動

【用語・記号】

最大公約数 最小公倍数 通分 約分 底面 側面 比例 %

(5) 概数についての理解を深める。

ア 目的に応じて、和、差を概数で見積もることができること。

B 量と測定

(1) 基本的な平面図形の面積が計算で求められることの理解を深め、面積を求めることができるようにする。

ア 三角形及び平行四辺形の面積の求め方を考え、それらを用いること。

イ 円の面積の求め方を考え、それを用いること。

(移動) 現行第 6 学年「B 量と測定」(2) から

(移動) 現行第 6 学年「B 量と測定」(2) イ、「3 内容の取扱い」(5) から

(移動) 現行第 6 学年「B 量と測定」(3) の一部から

C 図形

(1) 図形についての観察や構成などの活動を通して、基本的な平面図形についての理解を一層深めるとともに、図形の構成要素及びそれらの位置関係に着目して考察できるようにする。

ア 直線の平行や垂直の関係について理解すること。

イ 平行四辺形、台形、ひし形について知り、それらをかいたり、作ったり、平面上で敷き詰めたりすること。

ウ 基本的な図形の簡単な性質を見だし、それを用いて図形を調べたり構成したりすること。

エ 円周率の意味について理解すること。

(移動) 現行第 6 学年「C 図形」(1) の一部から

D 数量関係

(1) 四則に関して成り立つ性質についてまとめる。

ア 交換法則、結合法則や分配法則についての理解を深めること。

(2) 百分率の意味について理解し、それを用いることができるようにする。

(3) 目的に応じて資料を分類整理し、それを円グラフ、帯グラフを用いて表すことができるようにする。

(4) 簡単な式で表されている関係について、二つの数量の対応や変わり方に着目するなど、数量の関係の見方や調べ方についての理解を深める。

(移動) 現行第 5 学年「3 内容の取扱い」(5) から

【用語・記号】

平行 垂直 対角線 %

3 内容の取扱い (移動) 現行第 6 学年「3 内容の取扱い」(1) から (1) 内容の「A 数と計算」の(1)のイについては、最大公約数や最小公倍数を形式的に求めることに偏ることなく、具体的な場面に即して取り扱うものとする。また、約数を調べる過程で素数について触れるものとする。 素数：(移動) 現行中学校第 3 学年から (2) 内容の「C 図形」の(1)のエについては、円周率は 3. 14 を用いるものとする。 (3) 内容の「C 図形」の(2)のアについては、見取図や展開図をかくことを取り扱うものとする。 (移動) 現行中学校第 1 学年から (4) 内容の「D 数量関係」の(3)については、歩合の表し方について触れるものとする。 【第 6 学年】 1 目 標 (1) 分数の乗法及び除法の意味について<u>理解を深め</u>，それらの計算の仕方を考え，用いることができるようにする。 (2) <u>円の面積及び角柱などの体積</u>を求めることができるようにするとともに，速さについて理解し，求めることができるようにする。 (3) <u>縮図や拡大図，対称な図形について理解し</u>，図形についての理解を深める。 (4) 比や比例について理解し，数量の関係の考察に関数の考えを用いることができるようにするとともに，文字を用いて式に表すことができるようにする。また，資料の散らばりを調べ統計的に考察することができるようにする。 2 内 容 A 数と計算 (1) 分数の乗法及び除法の意味についての<u>理解を深め</u>，それらを用いることができるようにする。 ア 乗数や除数が整数や小数である場合の計算の考え方を基にして，乗数や除数が分数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること。 イ 分数の乗法及び除法の計算の仕方を考え，それらの計算ができること。 (新設) ウ <u>分数の乗法及び除法についても，整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解すること。</u> (新設) (2) <u>小数及び分数の計算の能力を定着させ，それらを用いる能力を伸ばす。</u> B 量と測定 (1) <u>身の回りにある形について，その概形をとらえ，およその面積などを求めることができるようにする。</u>	3 内容の取扱い (1) 内容の「A 数と計算」の(3)については，整数を整数で割って商が小数になる場合も含めるものとする。 (削除) (2) 内容の「A 数と計算」の(3)のウについては，1/10 の位までの小数の計算を取り扱うものとする。 (削除) (3) 内容の「A 数と計算」の(4)のエについては，<u>真分数と真分数との加法及びその逆の減法</u>を取り扱うものとする。 (4) 内容の「B 量と測定」の(1)のイ及び「C 図形」の(1)のエについては，円周率としては 3. 14 を用いるが，目的に応じて 3 を用いて処理できるよう配慮するものとする。 (5) 内容の「C 図形」の(1)のウについては，三角形など多角形の角の大きさの和について調べることなどを取り扱うものとする。 (6) 内容の「D 数量関係」の(2)については，歩合の<u>意味</u>について<u>簡単に</u>触れるものとする。 【第 6 学年】 1 目 標 (1) 分数の加法及び減法についての理解を深め，適切に用いることができるようにするとともに，<u>分数の乗法及び除法の意味について理解し</u>，それらの計算の仕方を考え，<u>適切に</u>用いることができるようにする。 (2) <u>体積の意味について理解し，簡単な立体図形の体積</u>を求めることができるようにするとともに，速さの<u>意味など</u>について理解し，<u>それらを</u>求めることができるようにする。 (3) <u>図形を構成要素及びそれらの位置関係に着目して考察し，基本的な立体図形についての理解を深めることができるようにする。</u> (4) 比や比例の<u>意味</u>について理解し，数量の関係の考察に関数の考えを用いることができるようにする。 2 内 容 A 数と計算 (1) <u>整数の性質についての理解を一層深める。</u> ア <u>約数，倍数について知ること。</u> (2) <u>分数についての理解を一層深めるとともに，異分母の分数の加法及び減法の意味について理解し，それらを適切に用いることができるようにする。</u> ア <u>一つの分数の分子及び分母に同じ数を乗除してできる分数は，元の分数と同じ大きさを表すことを理解すること。</u> イ <u>分数の相等及び大小について考え，大小の比べ方をまとめること。</u> ウ <u>異分母の分数の加法及び減法の計算の仕方を考え，それらの計算ができること。</u> (3) 分数の乗法及び除法の意味について理解し，それらを<u>適切に</u>用いることができるようにする。 ア <u>乗数や除数が整数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること。</u> イ <u>乗数や除数が整数や小数の場合の計算の考え方を基にして，乗数や除数が分数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること。</u> ウ <u>分数の乗法及び除法の計算の仕方を考え，それらの計算ができること。</u> (4) <u>概数についての理解を一層深める。</u> ア <u>目的に応じて，積，商を概数で見積もることができること。</u> B 量と測定 (1) <u>身近にある図形について，その概形をとらえ，およその面積などを求めることができるようにする。</u>
---	---

(新設) (2) 図形の面積を計算によって求めることができるようにする。 ア 円の面積の求め方を考えること。 (3) 図形の体積を計算によって求めることができるようにする。 ア 角柱及び円柱の体積の求め方を考えること。 (4) 速さについて理解し、求めることができるようにする。 (新設) (5) メートル法の単位の仕組みについて理解できるようにする。 C 図形 (新設) (1) 図形についての観察や構成などの活動を通して、平面図形についての理解を深める。 ア 縮図や拡大図について理解すること。 イ 対称な図形について理解すること。 D 数量関係 (1) 比について理解できるようにする。 (2) 伴って変わる二つの数量の関係を考察することができるようにする。 ア 比例の関係について理解すること。また、式、表、グラフを用いてその特徴を調べること。 イ 比例の関係をを用いて、問題を解決すること。 ウ 反比例の関係について知ること。 (新設) (3) 数量の関係を表す式についての理解を深め、式を用いることができるようにする。 ア 数量を表す言葉や□、△などの代わりに、a、xなどの文字を用いて式に表したり、文字に数を当てはめて調べたりすること。 (新設) (4) 資料の平均や散らばりを調べ、統計的に考察したり表現したりすることができるようにする。 ア 資料の平均について知ること。 (新設) イ 度数分布を表す表やグラフについて知ること。 (新設) (5) 具体的な事柄について、起こり得る場合を順序よく整理して調べることができるようにする。 (新設) 【算数的活動】 (1) 内容の「A数と計算」、「B量と測定」、「C図形」及び「D数量関係」に示す事項については、例えば、次のような算数的活動を通して指導するものとする。 ア 分数についての計算の意味や計算の仕方を、言葉、数、式、図、数直線を用いて考え、説明する活動 イ 身の回りで使われている量の単位を見付けたり、それがこれまでに学習した単位とどのような関係にあるかを調べたりする活動 ウ 身の回りから、縮図や拡大図、対称な図形を見付ける活動 エ 身の回りから、比例の関係にある二つの数量を見付けたり、比例の関係をを用いて問題を解決したりする活動 【用語・記号】 線対称 点对称	(2) 体積の意味について理解し、簡単な場合について、体積を求めることができるようにする。 ア 体積について単位と測定の意味を理解すること。 イ 体積の単位（立方センチメートル(cm³））について知ること。 ウ 立方体及び直方体の体積の求め方を考え、それらを用いること。 (3) 異種の二つの量の割合としてとらえられる数量について、その比べ方や表し方を理解し、それを用いることができるようにする。 ア 単位量当たりの考えなどを用いること。 イ 速さの意味及び表し方について理解するとともに、速さの求め方を考え、それを求めること。 C 図形 (1) 図形についての観察や構成などの活動を通して、基本的な立体図形についての理解を深めるとともに、図形の構成要素及びそれらの位置関係に着目して考察ができるようにする。 ア 立方体及び直方体について理解すること。 イ 直方体に関連して、直線や平面の平行及び垂直の関係について理解すること。 ウ 三角柱、四角柱などの角柱及び円柱について知ること。 D 数量関係 (1) 簡単な場合について、比の意味を理解できるようにする。 (2) 伴って変わる二つの数量について、それらの関係を考察する能力を伸ばす。 ア 比例の意味について理解すること。また、簡単な場合について、表やグラフを用いてその特徴を調べること。 (3) 平均の意味について理解し、それを用いることができるようにする。 【用語・記号】 最大公約数 最小公倍数 約分 通分 平面 底面 側面
--	--

3 内容の取扱い (新設) (1) 内容の「A数と計算」の(1)については、 逆数: (移動) 現行中学校第1学年から 逆数を用いて除法を乗法の計算としてみることや、整数や小数の乗法や除法を分数の場合の計算にまとめることも取り扱うものとする。 (2) 内容の「B量と測定」の(2)のアについては、円周率は3.14を用いるものとする。 (移動) 現行第5学年「3内容の取扱い」(4)の一部から	3 内容の取扱い (1) 内容の「A数と計算」の(1)のアについては、最大公約数及び最小公倍数を形式的に求めることに偏ることなく、具体的な場面に即して取り扱う程度とする。 (削除) (2) 内容の「A数と計算」の(2)のウについては、真分数と真分数との加法及びその逆の減法を取り扱うものとする。 (削除) (3) 内容の「A数と計算」の(3)については、帯分数を含む計算は取り扱わないものとする。 (削除) (4) 内容の「A数と計算」の(3)のイについては、乗数、除数が単位分数など簡単な場合を取り扱うものとする。 (5) 内容の「B量と測定」の(2)のイについては、立方メートル(m³)の単位についても簡単に扱うものとする。 (6) 内容の「C図形」の(1)のアについては、適宜簡単な見取図や展開図をかくことができるよう配慮するものとする。 (削除) (7) 内容の「C図形」の(1)のウについては、展開図、立面図及び平面図は取り扱わないものとする。 (削除) (8) 内容の「D数量関係」の(1)については、具体的な場面を通して数量の関係を調べ、等しい比があることを理解する程度とするとともに、比の値は取り扱わないものとする。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1) 第2の各学年の内容は、次の学年以降においても必要に応じて継続して指導すること。<u>数量や図形についての基礎的な能力の習熟や維持を図るため、適宜練習の機会を設けて計画的に指導すること。また、学年間の指導内容を円滑に接続させるため、適切な反復による学習指導を進めるようにすること。</u> (2) 第2の各学年の内容の「A数と計算」, 「B量と測定」, 「C図形」及び「D数量関係」の間の指導の関連を図ること。 (3) <u>算数的活動は、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けたり、思考力、判断力、表現力等を高めたり、算数を学ぶことの楽しさや意義を実感したりするために、重要な役割を果たすものであることから、各学年の内容の「A数と計算」, 「B量と測定」, 「C図形」及び「D数量関係」に示す事項については、算数的活動を通して指導するようにすること。</u> (新設) (4) <u>第1章総則の第1の2及び第3章道德の第1に示す道德教育の目標に基づき、道德の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道德の第2に示す内容について、算数科の特質に応じて適切な指導をすること。</u> 2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。 (1) 数量や図形についての豊かな感覚を育てるとともに、およその大きさや形をとらえ、それらに基づいて適切に判断したり、能率的な処理の仕方を考え出したりすることができるようにすること。 (新設) (2) <u>思考力、判断力、表現力等を育成するため、各学年の内容の指導に当たっては、言葉、数、式、図、表、グラフを用いて考えたり、説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりするなどの学習活動を積極的に取り入れるようにすること。</u> (3) 各学年の内容に示す〔用語・記号〕は、当該学年で取り上げる内容の程度や範囲を明確にするために示したものであり、その指導に当たっては、各学年の内容と密接に関連させて取り上げるようにし、それらを用いて表したり考えたりすることのよさが分かるようにすること。	第3 指導計画の作成と各学年にわたる内容の取扱い 1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1) 第2の各学年の内容は、次の学年以降においても必要に応じて継続して指導すること。 (2) <u>論理的な思考力や直観力、問題解決の能力を育成するため、実生活における様々な事象との関連を図りつつ、作業的・体験的な活動など算数的活動を積極的に取り入れるようにすること。</u> (3) 第2の各学年の内容の「A数と計算」, 「B量と測定」, 「C図形」及び「D数量関係」の間の指導の関連を図ること。<u>その際、幾つかの内容を総合させる算数的活動を積極的に取り入れるようにすること。</u> (4) <u>計算や測定などの基礎的な技能については、その習熟や維持を図るため適宜練習の機会を設けて計画的に指導すること。</u> 2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。 (1) 数量や図形についての豊かな感覚を育てるとともに、およその大きさや形をとらえ、それらに基づいて適切に判断をしたり、能率的な処理の仕方を考え出したりすることができるようにすること。 (2) <u>各学年の「A数と計算」の指導に当たっては、計算の仕方を考えたり、計算の確かめをしたりするときに、計算の結果の見積りを生かすようにすること。</u> (削除) (3) <u>各学年の「B量と測定」の指導に当たっては、形式的な単位の換算は取り扱わないようにすること。</u> (4) 各学年の内容に示す〔用語・記号〕は、当該学年で取り上げる内容の範囲や程度を明確にするために示したものであり、その指導に当たっては、各学年の内容と密接に関連させて取り上げるようにし、それらを用いて表したり考えたりすることのよさが分かるようにすること。

- | | |
|---|--|
| <p>(4) <u>筆算による計算の技能を確実に身に付けることを重視するとともに、目的に応じて計算の結果の見積りをして、計算の仕方や結果について適切に判断できるようにすること。</u>また、低学年の「A数と計算」の指導に当たっては、そろばんや具体物などの教具を適宜用いて、数と計算についての意味の理解を深めるよう留意すること。</p> <p>(5) 数量や図形についての感覚を豊かにしたり、表やグラフを用いて表現する力を高めたりする<u>などのため、必要な場面においてコンピュータなどを適切に活用</u>すること。</p> | <p>(5) <u>問題解決の過程において、桁数の大きい数の計算を扱ったり、複雑な計算をしたりする場面などで、そろばんや電卓などを第4学年以降において適宜用いるようにすること。</u>その際、計算の結果の見積りをしたり、計算の確かめをしたりする場面を<u>適切に設けるようにすること。</u>また、低学年の「A数と計算」の指導に当たっては、そろばんや具体物などの教具を適宜用いて、数と計算についての意味の理解を深めるよう留意すること。</p> <p>(6) <u>コンピュータなどを有効に活用し、</u>数量や図形についての感覚を豊かにしたり、表やグラフを用いて表現する<u>力を高めたりするよう留意</u>すること。</p> <p>(削除)</p> <p>(7) 内容の範囲や程度等を示す事項は、すべての児童に対して指導するものとする内容の範囲や程度等を示したものであり、学校において特に必要がある場合には、この事項にかかわらず指導することができること。</p> |
|---|--|